Forex

株式会社　ジャパン
エコノミックパルス
〒103-0007
東京都中央区日本橋浜町
2-33-5
Tel 03-5962-3910
Fax 03-5962-3913
www.j-pulse.co.jp
info@j-pulse.info

Market Insight
2026年11月9日（月）

全般ドル高や円高抑制、持続と反動にらむ

米日株、米日の中銀政策、米物価指標、中東など焦点

今週の為替相場は全般的なドル高や円高抑制の持続と、反動的なドル安や円高をにらんだ展開となる。週間予想はドル/円が156.80－159.50円、ユーロ/円が174.30－178.60円。前週は米議会の中間選挙で野党・民主党が大勝し、AIの規制強化懸念などで米日株は急落となった。安全逃避や米財政の悪化歯止め期待などで米国債やドルは買われ、前週後半には米雇用統計が改善したこともドルをサポートした。全般ドル高等により、リスク回避による過度な円高は抑制されている。今週は米日株や米日の中銀政策、米物価指標、中東情勢などが焦点になる。

リスク回避相場、過度な円高は限定的

今週の為替相場で注目されるのは、前週までに大幅下落となった米日株の動向だ。前週は米議会の中間選挙で上下院ともに野党・民主党が予想以上の大勝となり、AIやデータセンターなどの規制強化が警戒され、AI・半導体関連株が大幅な下落となっている。

為替相場では安全逃避などで、米国債やドルの買いが優勢になった（米債金利は低下）。今週以降、上下動を経ながらも米日株の下落基調が続くと、全般的にドル高やドル安抑制につながる。ドル/円もドル高やドル安抑制となる一方、クロス円（円の対非ドル通貨相場）取引は対ドルでの非ドル通貨安が波及したり、リスク回避が非ドル通貨の上値抑制や下落（円は上昇）につながる可能性が注視されそうだ。

反対に米日株が反発となる場合、ドルは全般的にドル高抑制やドル安の余地がある。円相場は「ドル/円でのドル安・円高」と「クロス円での非ドル高・円安」の綱引きとなりやすい。

ただし、ドルは基調として底堅さを維持させる可能性もある。前週にドルが上昇した要因としては、米国の中間選挙で敗北した共和党側・トランプ大統領の影響力低下や、民主党による政権への監視・牽制が強化される、といった思惑もあった。

具体的には「米国の財政悪化に歯止めがかかる」、「トランプ政権による他国への関税強化や対イラン戦争など、対外強硬姿勢が緩和される」、「米イラン戦争が幕引きに向かう（米国の経済や物価にはプラス要因）」、「トランプ大統領によるFRB利下げ圧力の影響力が低下し、FRBはインフレ封じへフリーハンドを確保する」といった期待感などがドルをサポートしている。

その他、前週後半には米国の10月指標で、雇用統計や失業率が改善となった。米FRBによる12月の利上げ観測も高まり、広範な通貨に対してドル高が進展している。

円相場は前週までの米日株安により、クロス円（円の対非ドル通貨相場）取引の主導でリスク回避等による円高圧力が強まる場面もあった。しかし過度な円高・外貨安は限定的になっており、背景としては「ドル/円でのドル高が円高

WARNING! 記事並びに情報はすべて株式会社ジャパンエコノミックパルスに帰属しています。無断転載及び転送は法的に罰せられますのでご注意ください。
〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-33-5 マリオン浜町ビル
TEL (03) 5962-3910　FAX (03) 5962-3913
E-Mail info@j-pulse.co.jp　URL http://www.j-pulse.co.jp
発行責任者：上坂　郁　　編集長：原田　祥二

圧力の広がりを制御している」、「AI・半導体関連の需要が減速した場合、関連価格は下落するほか、米イラン戦争が幕引きに向かえば資源相場は下落することで、日銀による物価高抑止の利上げペース加速観測は後退する」、「海外投機筋は米シカゴ先物市場などで円ロング・ポジション（円の買い持ち）に傾斜しており、リスク回避とポジション圧縮（アンワインド）でも円の買い戻し度合いは限られる」といった要因がある。

10月後半からのリスク回避激化のなか、円の対主要通貨スポット（直物）取引における通貨別成績では、10月28日から11月9日アジア市場にかけての「上昇率上位」に、ハンガリー、スイス、南アフリカ、英国、メキシコ、スウェーデン、ポーランド、米国などの各通貨が並んでいる（円は各通貨に対して下落や上昇抑制）。その他の注目点は以下。

＜ドル/円、13週平均が8月以来の上向き化＞

為替相場のドル/円は週足テクニカルで、昨春以降のドルの複数下値抵抗線について、上下動を経ながらも上抜け維持や回復ができるか。完全に下抜けていくかの攻防が続いている。3カ月スパンの基調トレンドを示す13週移動平均については、方向性を示す角度が8月後半以降の下向き化を経て、ドルの下値切り上がり基調を示す上向き化に転換し始めた。

ブルームバーグのレートによると、前週末11月6日時点における下値抵抗ラインの数値は以下のようになっている。週足・一目均衡表の基準線158.44円、52週移動平均線158.08円、13週移動平均線157.64円、週足・一目均衡表の雲上限（先行スパン1）157.15円（今週も157.15円）、週足・一目均衡表の転換線155.96円、75週移動平均線155.02円など。

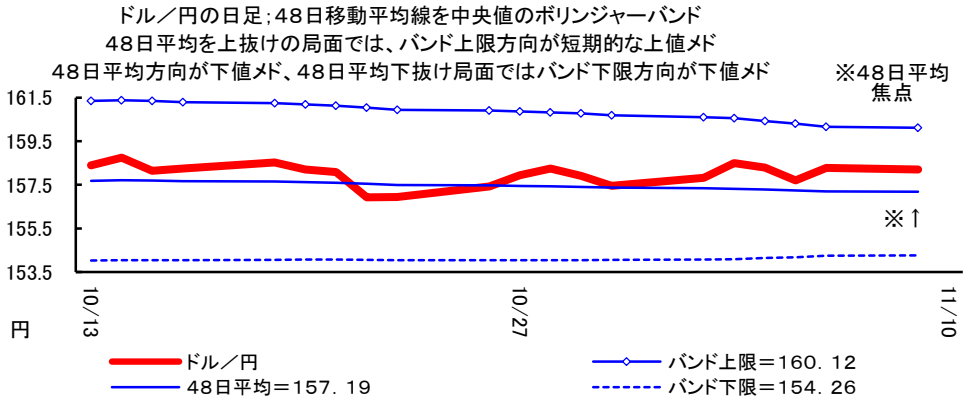
＜クロス円、週足の下値抵抗線攻防＞

為替相場のクロス円取引（円の対非ドル通貨相場）では、週足テクニカルで重要な外貨の下値抵抗線を維持できるか。完全に下抜けていくかの攻防が続いている。ブルームバーグのレートによると、前週末11月6日時点における下値抵抗ラインと数値は以下のようになっている。

ユーロ/円＝100週移動平均線175.15円、週足・一目均衡表の雲下限（先行スパン2）174.52円（今週は174.60円）、ポンド/円＝週足・一目均衡表の雲上限（先行スパン1）211.46円（今週は211.89円）、60週移動平均線210.53円、70週移動平均線208.84円、スイス・フラン/円＝90週移動平均線190.13円、週足・一目均衡表の雲下限（先行スパン2）188.76円（今週は188.95円）、カナダ・ドル/円＝週足・一目均衡表の転換線111.92円、70週移動平均線112.22円、75週移動平均線111.81円、豪ドル/円＝週足・一目均衡表の雲上限（先行スパン1）109.61円（今週は109.65円）、60週移動平均線108.58円、65週移動平均線107.64円など。

＜米国の物価指標＞

今週の米国では、FRBの金融政策に影響する10月の物価指標が相次ぐ。10日にCPI（消費者物価指数）、13日にPPI（生産者物価指数）などが予定されている。米国では中東緊張などにより、3月から資源・商品相場が上昇となっている。た



だし、9月から10月にかけては、高値圏での上下動となってきた。その点で10月の物価指標については、前月比で上昇ペースが鈍化したり、前年比での上振れ幅が抑制される可能性もある。

米国では前週後半に雇用統計が改善となり、FRBによる12月の利上げや、続く来年1－3月にかけての利上げ観測が高まってきた。その分だけ今週の物価指標が懸念ほどには上昇しない場合、過度な利上げ織り込みに修正が入り、短期的にドル安となる可能性が無視できない。

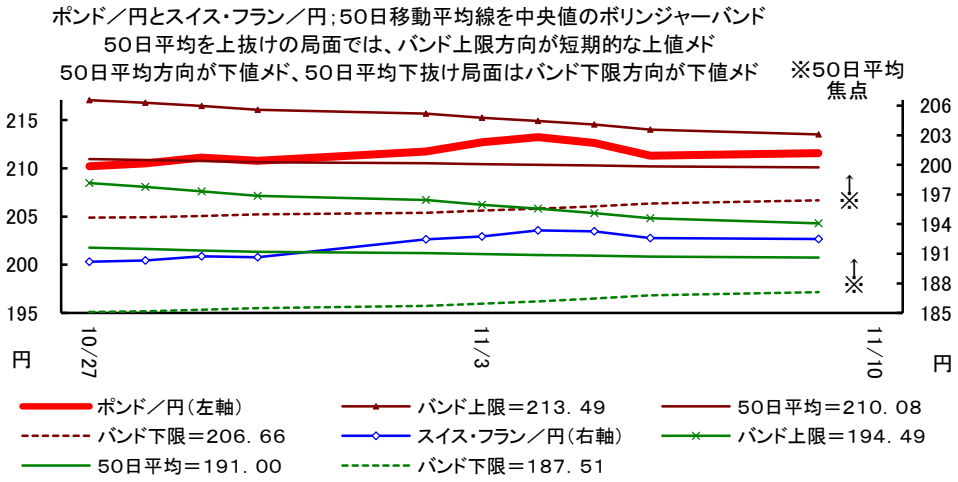
ただし米国では基本的な物価の高水準が、継続となる可能性がある。短期的にドルが下落となっても、ドルの押し目買い需要の増加などで、ドルの下値は切り上がりが意識されやすい。

＜米イラン戦争の幕引きへの動き＞

米国では前週の中間選挙で、トランプ米大統領が所属する共和党が大敗した。敗因は対イラン戦争とガソリンなどの物価上昇にあり、今週以降は対イラン戦争の幕引きに向けた外交交渉などが注目されやすい。

今週以降、米イランの間で「軍事衝突回避」と「外交による話し合い」が進展となれば、原油相場は下落。米国でのインフレ懸念後退により、米国債金利の低下（米国債価格は上昇）とドル安の要因となる。同時に米日株など世界株は上昇となり、リスク選好がクロス円の主導で全般円安を招く可能性もある。

反対に改めて外交交渉が難航し、中東情勢が不安定化すると、原油上昇、米債金利上昇、ドル高という展開や、世界株安によるリスク回避とクロス円主導での円高圧力というシナリオも無視できない。



お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。本レポートの内容は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。